



2023年 県立新庄病院オープン決定!

地域のランドマークとして魅力ある病院に!



(イメージ)

完成 県立新庄病院
開院

2023

外構工事
医療機器等整備



2022

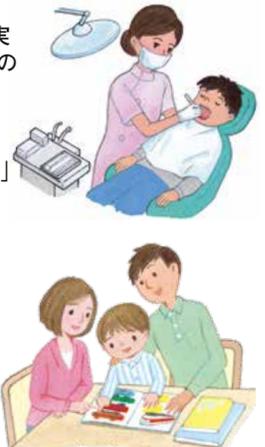
建設工事

2021

着工
2020

新病院の主な機能強化ポイント

- 地域救命救急センター設置
- 診療科の増設
緩和ケア内科、腫瘍内科、血液内科、精神科・心療内科、歯科、救急科、リハビリテーション科、腎臓・内分泌内科、総合診療科
- 介護、福祉との連携
・高齢者、障がい児の対応充実
・こども医療療育センター等との連携によるフォローアップ
- 市夜間休日診療所移転
- 地域連携
・「総合患者支援センター(仮称)」の設置
・最上保健所との連携による介護・福祉の相談窓口整備
- 院内保育所整備
- 患者用図書室整備など



施設整備計画基本方針

- 1 患者の療養環境に配慮した施設整備
・プライバシーに配慮した診察室及び入院室差額個室の整備
・患者用図書室の整備
・身障者に配慮した駐車場の整備
- 2 最上地域唯一の基幹病院としての機能を備えた施設整備
・化学療法、放射線治療機能の充実(地域がん拠点病院としての機能発揮)
・ヘリポートの整備(救急受け入れ体制の強化及び被災拠点病院としての機能発揮)
- 3 地域特性に配慮した施設整備
・積雪等を考慮した十分な駐車台数の確保(850台程度)
- 4 職員の働きがい・職場環境に配慮した施設整備
・院内保育所の設置
- 5 開院後の健全経営を見据えた施設整備
・外来診察室等への共通仕様(可変性)の導入

金曜トピックス

県立新庄病院(新庄市)の改築整備基本計画案が、最上地域の医療・福祉関係者の有志が昨年12月、市内で「新庄最上の医療・福祉を考える集い」を開催し、地元の要望を集約した。▽新庄市夜間休日診療所の院内への機能移転▽歯科診療科の配置による口腔ケア(マウス)ケアの充実▽障害児医療の充実▽地域生活ケアシステムの機能強化などを求める要望書を市庁舎で子ども未来部に出した。

その後、今月1日に開かれた専門委員会(県立病院事務局)で、集いの発起人でもある三條典男(新庄市)が、改築整備基本計画案が示した基本計画案は、地元の要望が十分に反映された内容となった。専門委員会では、集いの発起人でも三條典男(新庄市)が、改築整備基本計画案が示した基本計画案は、地元の要望が十分に反映された内容となった。専門委員会では、集いの発起人でも三條典男(新庄市)が、改築整備基本計画案が示した基本計画案は、地元の要望が十分に反映された内容となった。

県立新庄病院改築の基本計画案

反映された地元の声

最上地域の中核病院である県立新庄病院。2023年度内の開院目標に向けて17年度中に改築整備基本計画が策定される。――新庄市

山形新聞・平成30年2月16日

「新庄最上の地域医療を考える集い」を開催し、地元の要望を集約した。▽新庄市夜間休日診療所の院内への機能移転▽歯科診療科の配置による口腔ケア(マウス)ケアの充実▽障害児医療の充実▽地域生活ケアシステムの機能強化などを求める要望書を市庁舎で子ども未来部に出した。

県立新庄病院を中心とした地域の歯科医療、口腔ケアの充実をめざして

新庄地区歯科医師会会長 伊藤 好之氏(伊藤ヨシユキ歯科医院院長)

この度、県立新庄病院の改築整備の基本構想の診療科の中に「歯科」と明記されました。平成27年7月に第1回山形県立新庄病院改築整備検討委員会が始まり、歯科医師会からの意見で新設の新庄病院に歯科の設置をお願いしたのですが、私の説明不足もあり、その後の第2回、第3回の検討委員会では歯科の設置については検討内容から離れてしまったようで非常に残念な思いと、しっかりと説明をしなかった事に深く反省をしております。

しかし、地元選出の県議会議員や新庄最上郡医師会を中心に歯科医師会、薬剤師会をはじめ包括ケアシステムに関わる各団体が加わり「新庄最上の地域医療を考える会」が立ち上がり、もう一度意見を述べる機会を得ました。そこで歯科医師会会員の意見をまとめて申し上げた意見内容が専門委員会に届き検討していただいたようです。関係者の方々に深く感謝申し上げます。

おそらく病院歯科は口腔外科を中心としたものとの認識で、新庄徳洲会病院に口腔外科が存在して、県立新庄病院にあえて病院歯科の設置は不要と思われると思います。しかし、私達が要望したのは口腔外科を含む一般的な治療はもちろん、専門的な口腔ケアを習得した歯科医が常勤する歯科の設置なのです。一般に口腔ケアは口腔清掃による衛生管理と思われがちですが、摂食、咀嚼、嚥下、構音などの機能的口腔ケアもあり、それこそ専門的な知識と技術が要求されます。

但し、口腔ケアは毎日行う事が基本です。それを医師、スタッフが忙しい中出来る体制がとれるか、過負担になってしまうのではという心配がありました。

現在、入院患者さんの歯科治療は訪問診療という形で県立新庄病院から要請があれば、かかりつけ歯科医を中心に歯科医師会の会員が対応する体制を整えています。会員の多くは予約制の治療体制をとっていて、要請があってもすぐに対応出来ない場合が多い上に、一般的な歯科治療はその特性上継続した治療が必要である場合が多く、一般開業医の訪問診療では治療期間が長くなってしまふ可能性があります。また、照度や患者さんの状況によっては対応出来る範囲も限られてしまふのが現実です。

総合的に判断すると、病院入院中は、常勤の歯科医師が歯科治療や口腔ケアの内

容指示を行い、常勤歯科衛生士が専門的口腔ケアを行ったうえで、退院後、居宅や介護施設での治療や口腔ケアは一般開業医が行う、そのような役割分担をした方が患者さんの為になるのではないのでしょうか。また、専門的なプロフェッショナル口腔ケアの知識や技術の発信地としての役割を担って頂き、看護師や介護士あるいは、介護をしている方々に伝わり最上地区全体の口腔ケアの出来るレベルが向上すれば歯科設置の意義が証明されると思います。

更に申し上げれば、身障者へ対応出来る歯科医師の招致も考えていただきたいのです。最上地区で身障者歯科を専門に習得した歯科医師が残念ながら居りません。施設や保護者からの要請に対処できない状況と思われれます。先日、身障者施設の先生が、近くに受診する診療科が無く遠くの病院に受診に行き、ハブニングがあれば受診しないで無駄足となって帰って来なければならないという実情を訴えておられました。最上地区に身障者に対応出来る特診科が必要と思います。

県立新庄病院が最上地区の基幹病院である以上、地域住民が安心して暮らせる充実した病院である責任があると思います。また、地域包括ケアにおいて、他職種連携に関わる知識や情報の発信に中心的な存在であり、今後も、今まで以上に住民の健康維持に頼れる存在であり続けて欲しいと思います。

私達歯科医師会としてはお互いに良い関係を構築して少しでもお役に立てればと思っております。



基本・実施設計

2019 2018

新庄最上の地域医療を考える集い開催

2017年12月17日/三師会主催/医師会、歯科医師会、薬剤師会

○主な意見・要望

- 障がい児障がい者支援団体
県立こども医療療育センターが山形県にあって、遠くまで受診するの大きな状況。障がい児を育てる家族の負担が物理的に他の地域に比べて大きい。新庄でサポートを受けられるようにしてほしい。
- 医師会
2025年には団塊の世代が後期高齢者となり超高齢社会になると言われているが、この地域では既に超高齢社会を迎えている。地域の医療や福祉と連携する新しい発想の病院にすべきだ。
- 夜間休日診療所を県立病院に併設し、医師のマンパワーを効率的に活かすことが必要。医師会としては市を通し県に依頼している。
- 検査センターと県立病院の併設は他県で前例がある。
- 歯科医師会
入院中の口腔ケアは大切であり、歯科設置を希望する。嚥下のみならず専門の医師も必要だ。
- 子育て、読書活動推進団体
患者も情報を得て医療従事者とともに治療をする時代。さまざまな情報提供をするために司書や配置した図書室が有効である。また、小児や発達障がい児などが治療の際にキールダウンするスペースとしても必要だ。
- 薬剤師会
薬の服用等について医療機関と連携しながら適切な助言を行い、効果的な治療や医療費削減に取り組んでいく。薬剤師会も連携して地域医療の充実に取り組む。
- 私たちとお医者さんを守る最上の会
市の夜間休日診療所と県立病院の救急外来を混同している人も多く、緊急でない状態で救急外来を受診している現状。併設されれば、すみわけができて医師の負担が減るのではないかと。夜間休日診療所を併設するには、市が単に丸投げせず医師確保や財政負担などの責任を持つことが必須である。

3/末 2/1 1/26 12/17 (2017)

吉村県知事に要望書提出

専門委員会

改築整備基本計画策定

山形新聞